



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

令和8年1月

45号

新年のご挨拶 令和8年～混迷の世相と変わらぬ信念～

明けましておめでとうございます。皆様、良い新年を迎えられたことと思います。

昨年は、国の診療報酬では到底補いきれないほどの物価・光熱費の高騰、人件費の引き上げにより病院を取り巻く環境は非常に厳しい1年でしたが、当院の運営においては職員一同の結束により乗り越えることができました。また、来院された方々よりご意見箱を通じて寄せられた多くのご意見から、患者さんへの温かい対応が当院を支えていることを実感しております。

令和8年が始まりました。本年は6月に診療報酬の改定が行われますが、本体部分は30年ぶりの3.09%の大幅引き上げで、全体では2.22%のプラス改定が決定しておりますが、経営的にはまだまだ厳しい状況は続くと思われます。公的病院として経営の健全化は重要課題ではありますが、本来私たちの使命と役割は、医療の質向上に務め、安全で最善の医療を患者さんに提供することです。また、公立病院としてはただ単に医療を提供するにとどまらず、災害時に対応できる準備を怠らないなど地域社会全体へ貢献することも大切です。職場としては、スタッフのキャリアアップ支援や働きやすい職場環境づくりに向けて労働環境の改善に取り組むことも重要課題と考えております。

令和8年も、どんな困難に直面しようと職員が一丸となって協力し、支え合いながらよりよい医療を提供し続け、地域住民の皆さんより「ここに在って欲しい、在ると安心、ないと困る」と思われる病院を目指して頑張ってまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



徳島市病院事業管理者
三宅 秀則

明けましておめでとうございます。今年の元旦は11階病棟から初日の出を見て、穏やかな新年を迎えることができました。

病院経営について振り返りますと、令和6年度が7年ぶりに2億円の赤字という決算状況であったため、令和7年度は急性期病床稼働率91%以上、救急車の受け入れを月310台以上と具体的な目標を掲げました。しかし、令和7年度も非常に厳しい医療情勢です。人件費や物価高騰の対策は我々だけの努力では限界があるので、6月の診療報酬改定で改善することを願っております。

外部の先生方からも高い評価をいただき、当院の存在価値が上昇するにつれて、忙しい部門・部署が増えています。本年は情報システムの更新もあり大変ですが、利他の精神、怒の心をもって共に協力すれば、働きやすい職場環境になることを期待できます。全国的な人口減少に伴う人手不足によって、当院でも今後人員は容易に増えないことを鑑みると、さらなるタスクシフトやタスクシェア、業務の効率化や勤務体制改変と医療DX導入を積極的に行い、働き方改革を進めていく必要があると考えています。

これからも、当院は地域医療、特に救急医療を支えていくことが公的病院としての使命であることを肝に銘じつつ、多くのスタッフがプライドをもって働きやすいと共感でき、誰からも信頼される病院を目指したいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



徳島市民病院長
中野 俊次

令和7年度 第2回 市民公開講座 開催

11月8日、ふれあい健康館で「令和7年度 第2回 市民公開講座」を開催しました。今回のテーマは「ロボット手術」です。ロボット手術とは、医師が3Dモニターを見ながら、コンピューター制御の機械の腕を操作して行う方法で、自動で手術をするわけではありません。細かな動きをサポートしてくれるため、体への負担が少なく、より正確で安全な手術が期待できます。

市民病院では、令和5年6月に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入して以来、多くの患者さんに利用していただいています。講座では、まず泌尿器科の福森先生がロボット手術の基本や、前立腺がんの治療について話されました。当院では手術だけでなく小線源治療も行っており、それぞれの患者さんに合った治療を選ぶことができます。

続いて産婦人科の山本先生が、婦人科領域で行うダヴィンチ手術や、より負担の少ない経腔的腹腔鏡手術（vNOTES）について紹介しました。外科の宇山先生からは、肺がんの基礎知識や進行度に応じた治療の流れをわかりやすく説明しました。

最後には参加者の皆さんから様々な質問も寄せられ、会場は和やかな雰囲気になりました。地域の皆さまと交流できる大変有意義な時間となりました。

(副院長 日野 直樹)



(右より) 司会の日野副院長、講師の山本医師、宇山医師



講演中の福森副院長

糖尿病デーのイベント開催

11月14日は、平成18年に国連が認定した『世界糖尿病デー』です。糖尿病について理解を深めていただくため、当院でも11日にイベントを開催しました。

午前の部では1階の待合ロビーで栄養相談、お薬相談、糖尿病に関する検査の説明・相談、血糖値測定のための4コーナーを開設し、来院者を迎えました。吹き抜けを囲む2階廊下北面には、糖尿病啓発のブルーサークルを糖尿病チームにて作成し、飾り付けています。

午後からは、地下1階 研修ホールにて医師による糖尿病の講演（糖尿病教室や災害時・シックデイ時の対応について約30分程度）、続いて理学療法士による講演と自分のできる筋肉トレーニングが紹介・実施されました。看護師からは毎年恒例の吉野川河川敷ウォーキングに変わり、椅子に座ったままで



(左から) 血糖値測定、検査相談、お薬相談、栄養相談のコーナー



足で引き寄せる新聞紙レース

できる新聞紙レースのゲームや糖尿病に関するクイズ大会（糖尿病を知ろう！編、食事編、運動編）を行い、景品のかかったポイント制で、楽しみながら糖尿病への理解を深めました。来年はさらに参加者が増えるようなイベントにしていきたいと考えています。

糖尿病発症には偏った食事、運動不足等の生活習慣が大きく関わります。定期的に健康診断を受けて、早期発見、早期治療に繋げることが重要です。患者さんは勿論、職員の皆さんも折に触れて糖尿病について知り、予防のため取り組んでいきましょう。

(内科外来 森川 誠子)

第64回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会に参加して

11月8日、9日に徳島大学蔵本キャンパスで開催された「第64回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会」に現地参加した。本学会は「薬学におけるプロフェッショナルリズムを研く ～科学を通じた医療への貢献～」をテーマに掲げ、薬学および関連領域の知識を発展させ、臨床や研究の現場が抱える課題の克服を目指して実施された。中四国地域の病院薬剤師や薬局薬剤師、薬学生など多職種が参加し、延べ人数は約1,000人にのぼった。

私は「トリプルネガティブ乳がんの術前化学療法における免疫関連有害事象の特徴に関する検討」という演題で口頭発表を行った。現場で活躍する薬剤師から多くの質問や意見をいただき、研究内容を深める貴重な機会となった。さらに地元開催ということもあり、徳島市民病院 薬剤部からも多数の薬剤師が参加し、10演題のポスター発表を実施した。これは市中病院の中で最多の発表数であり、日頃の取り組みが形として示される結果となった。



がん指導・専門薬剤師 小中 健

「有害事象・副作用（基礎と臨床）」セッションでは座長を務め、議論をリードする立場として学ぶことも多かった。また、徳島県ブースでは県内病院の代表として市民病院を紹介する「徳島で、咲かせようあなたの薬剤師ストーリー」の原稿も担当する機会をいただいた。

発表者、座長、広報の立場と多面的に関わったことで、学会の見え方が大きく変わり、非常に貴重な経験となった。今回得た知見を今後の研究や業務に活かし、さらに研鑽を積んでいきたい。

（薬剤部 がん指導・専門薬剤師 小中 健）



市民病院 薬剤部より多数の薬剤師が参加

患者サロン 年忘れお笑い&クリスマス会

12月24日 クリスマスイブに、患者サロン“なごみ”では毎年恒例となっている『年忘れお笑い&クリスマス会』が開催されました。

トナカイに扮した三宅事業管理者より、地域における当院の役割等に関するお話があり、続いてお笑い福祉士：ボランティアグループ＜笑＞さんによる演芸ショーが始まりました。病棟の患者さんもたくさん来てくださり、30人あまりの参加者は、手拍子で南京玉すだれの音頭をとったり、落語や漫談、腹話術を見て大きな声で笑いました。

『笑う門には福来たる』。来年も皆さまの笑顔が溢れる年となりますように…。

（患者支援センター 盛 佐知子）



正月にちなんだ落語を披露

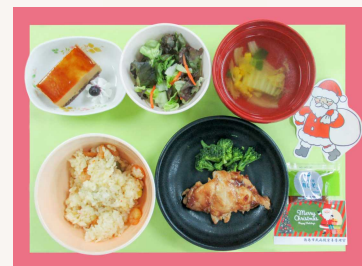


掛け声に合わせて手拍子が響く



市民病院では、入院中においても少しでも季節の移ろいや行事を楽しんでいたできるように、月に2回 行事食をご用意しています。12月にはクリスマスメニューが登場しました。

今後も、患者さんに給食の時間を楽しみにしていただける取組を行っていきたいと思います。（栄養管理室 瀧本 梨子）



メニューはエビピラフ、照り焼きチキン、白菜のスープ、サラダ、クリスマスケーキ

初日の出 鑑賞会

1月1日、当院の11階病棟にて「初日の出鑑賞会」を行いました。患者さんや、院長をはじめとする職員など約20名が参加し、新年の早朝、静寂につつまれた心地よい雰囲気の中、地平線から姿を



現す太陽を眺望しました。

鮮やかな朝日を静かに見つめる方、記念に写真を撮る方など、思い思いに新年の門出を迎えることができました。

(総務管理課 二川 暢之)

献 血

ご協力ありがとうございました

日本赤十字社は、様々な場所へ出張し献血を実施する「献血バス」を運行しています。12月26日に当院を訪れた際には、職員のほか一般の方1名が、全血400mLをご提供くださいました。

患者さんへ安定して血液を届けるため、今後ご協力の程よろしく願いいたします。

(広報管理室 竹内 明子)



◆ 研修医日記 ◆

臨床研修医の皆さんに、医師を目指すきっかけや印象深い経験、これからの目標についてなど自由に語っていただくリレー企画です。

生まれも育ちも徳島で、このたび研修医としても地元徳島、徳島市民病院でお世話になることになりました。地元少しでも貢献できるよう、研修期間を通して着実に臨床のスキルを身につけ、自分に合った将来の志望科を見つけられたらと思っています。

大学時代は旅行が好きで、長期休暇のたびに海外や国内旅行に出かけていました。韓国やタイなどアジアの国々を中心に訪れ、卒業旅行ではイギリスとスペインに行きました。まだまだたくさん行きたい国や土地があるので、研修医をしながらではありますが、リフレッシュも兼ねて行けたらいいなと思っています。

最近の休日は、家でゆっくり韓国ドラマを観ることが多いです。つい最近までNetflixで『いつか賢いレジデント生活』を観ていました。医師として働く主人公たちの姿がリアルに描かれており、自分自身の研修医生活と重なる部分も多く、励まされることが多かったです。医療ドラマだけでなく幅広くいろんなジャンルのドラマを見るので、オススメがあればぜひ教えてください。

研修医としての毎日は緊張感の連続ですが、先生方をはじめ、医療スタッフの方全員が優しく丁寧に指導くださるおかげで、少しずつではありますが、自分の成長を実感できるようになってきました。まだまだ未熟な点ばかりですが、今後もひとつひとつの経験を大切にしながら、知識や技術を身につけていきたいと思っています。これからの2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 山下 華乃)



初期研修医1年目の佃 直行と申します。広島県出身で、現在は徳島市民病院で日々研鑽を積んでいます。

私の学生時代を振り返ると、小中学生の頃は剣道や水泳、高校ではバドミントン、大学ではサッカーに取り組んできました。いずれも初心者としてのスタートで、経験者ばかりの中で苦勞することも多くありましたが、その分学ぶ姿勢や粘り強さが身についたと感じています。さまざまな競技を経験できたことは、今となっては貴重な財産です。

現在のリフレッシュ方法はゴルフです。なかなか思うように上達せず、もどかしさもありますが、自然の中で体を動かすことは気分転換にもなり、とても楽しい時間です。もし機会があれば、病院の先生方とも一緒にさせていただけたら嬉しいです。

さて、初期研修が始まって早くも10ヶ月が経ちました。徳島市民病院はとても雰囲気が良く、先生方だけでなく、看護師さんやコメディカルの方々にも丁寧に指導いただける環境に感謝しています。特に印象に残っているのは、ある先生が「手術には夢中になれる魅力がある」と話されていたことです。実際に手術に立ち会わせていただく中で、術野の工夫や手順の美しさ、判断の速さに触れ、その言葉の意味が少し分かったような気がしました。自分も将来、そんなふうによりがいを感ぜられる分野を見つけていきたいと思っています。

まだまだ未熟な点も多いですが、日々の経験を大切にしながら成長できるよう努力を重ねていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 佃 直行)

